

鵜戸神宮：運玉

鵜戸神宮を訪れた方は、運玉という「幸運を呼ぶ玉」を投げることで、運気を上げることができます。運玉は石灰でできた小石で、この尾根の下の亀の形をした岩の上にある、縄で目印が付けられた小さな水たまりに向かって投げられます。慣習では、男性は左手で、女性は右手で投げることになっています。小石が水たまりに入れば、投げた人の願いが成就すると言われていました。1950年代以前は、人々はこの小石ではなく硬貨を投げていました。これは、子供たちが水たまりまで下りて行ってお金を集めようとして危険だったため、中止されました。この岩は亀石（「亀の石」の意）と呼ばれ、神社の主祭神であるウガヤフキアエズにまつわる神話にちなんでいます。誕生の際に海の神の娘である母親から捨てられたウガヤフキアエズは、叔母によって育てられますが、その叔母は巨大の亀の背中に乗って彼に会いに来たのでした。